

1. 新センター長挨拶

本年度より、生涯学習教育研究センターは教育・学生支援機構に入り、新たな船出をしました。この組織改編にともない、いずれ専任教員(現担当教員)がセンター長を務めるという方針が示されたことを受け、センター長として微力を尽くすことになりました。

私事ですが、本学に着任して5年が経過しました。その間、医学部との統合、国立大学法人化、組織改編と大きな変化を経験しました。その中で本センターが埋没しないよう、変革を目指してさまざまな取り組みを行ってきました。受講料収入に応じた研究費還元型の公開講座を全国に先駆けて実施したり、ニュースレターを発行することでより多くの学内教職員にセンターへの理解を得ようとしたり、現代GPや大学博物館への積極的な協力を行ったり、学内貢献をひとつの柱としました。本来期待される地域貢献部門では香川県教育委員会と2つの協定を結び、県内の指導者養成のまとめの部分を大学として引き受けたり、担当教員が生涯学習政策アドバイザーとして週4時間生涯学習・文化財課へ出向し、教育委員会のみならず知事部局や市町あるいは団体からの相談を受けたりしています。その他にも各種委員会や研修等で数多くの地域貢献の実績を上げてきました。

今後もアグレッシブな生涯学習教育研究センターの姿勢を失わず、邁進していく所存です。公開講座だけではなく、さまざまな領域でみなさまとご一緒できれば幸いです。今後も変わらずご支援賜りますようお願い申し上げます。

生涯学習教育研究センター長 清國 祐二



2. 参加型学習への誘い～センター担当教員の研究・実践紹介(2)～

今回は、グループワークにおけるラベルワークを中心に実践紹介をします。なぜグループワークと断ったかということ、ラベルワークそのものは必ずしも集団で行うことを前提としているわけではなく、個人のデータ整理や分類にも使えるからです。

ラベルワークのオーソドックスな展開は、あるテーマに関する個人のアイデアをできるだけたくさん集め、それをグルーピングし、分類されたグループに適切なネーミングをしながら、それぞれのグループの関連を明らかにすることで、課題の構造的把握を目指すという形です。展開自体は単純なのですが、ラベルワークに不慣れな人にとってはグルーピングの妥当性やネーミングの適切性などの判断が困難で、大きな戸惑いを感じたり、行き詰まったりして、集中力が途切れてしまいます。それを克服するための方法が「イメージ・ラベルワーク」なのです。(前回のニュースレターをご参照下さい。)

私は、このイメージ・ラベルワークを参加型学習に不慣れな一般成人や学生向けに行っています。主要な理由を以下紹介します。

- ①論理的思考の必要な構造的把握を「イメージ図」に落とす作業を通して、ストーリーとして全体像の把握が容易となる。
- ②ラベルワークはグルーピングとネーミングに時間を要するが、この方法だとイメージ図の決定からネーミング→グルーピングと遡って考えられる。



- ③できあがりイメージ図なので周囲のグループの進展状況が一目瞭然であり、自分たちのペースもつくりやすい。
- ④学習者の特性(発想の面白い人、論理的に考えられる人、言葉を沢山知っている人、絵の上手な人、リーダーシップのとれる人など)が自然と活かされる。
- ⑤共同作業によるイメージ図の完成で達成感が得られやすい。
- ⑥イメージ図のもつメッセージ性が強いため、グループ発表が短時間でわかりやすく、聞く側を飽きさせない。

以上のように、ここで得られた学習参加への満足感が次の学習に誘うと考えられるので、学習者の特性に応じて使用しています。しかし、どうしてもイメージ図に注意が向かってしまい、課題の背後にある状況に深く触れたり、課題の構造をじっくり考えることには不向きであることも事実です。ラベルワークはあくまでも学習を支援する手法ですので、学習目的に応じた使用を心がけなければならないことはいうまでもありません。

次回は、ランキングについてご紹介します。(文責:清國)

3. 新刊紹介

佐々木正治編『生涯学習社会の構築』福村出版、2007年4月

* * * * *

本書は、生涯学習社会の構築に向けて必要とされる諸課題を構造的に把握するために編集されています。現代社会を生きる不可避的要素としての学習への認識は高まりつつあるものの、それが必ずしも社会システムとして構築されているわけではありません。包括的な理念である生涯学習を社会システムという文脈でとらえて、これまでの課題を整理しつつ、近年の社会変化を視野に入れ、今後の方向性を示しています。平成の大合併や教育基本法の改正を契機に各地で改めて生涯学習の振興が議論されています。そのような状況を考えると、とても時宜を得た良書といえるでしょう。

* * * * *

<担当執筆章> 第5章「生涯学習の推進と計画」(清國祐二)

キーワード:社会計画(総合振興計画) 教育計画・生涯学習推進計画 社会教育計画の原理
学習者の自由・自発性 社会教育行財政 指定管理者制度 民間活力の導入



4. 平成19年度公開講座の追加募集、締切迫る！

一昨年度より公開講座の募集を12月と6月の年2回実施しております。

メールにてすでにご連絡してありますとおり、6月4日より今年度後期分の公開講座追加募集が始まりました。締切は7月2日(月)です。計画の詳細は本センター担当教員との協議の中で詰めていただければ結構ですので、頭の片隅に構想がありましたら、是非ともお申し込み下さるようお願いいたします。

📍 申込先: センター事務局 内線:1273 メール:syogse@ao.kagawa-u.ac.jp

センター雑感

今夏は4年に1度の四国地区社会教育主事講習が開催されます。現職の自治体職員や教員の方々が当センターにて1ヶ月間研修を受けます。活気ある香川大学の姿が彼らの目にうつることを期待しつつ、準備を進めています。(山本)